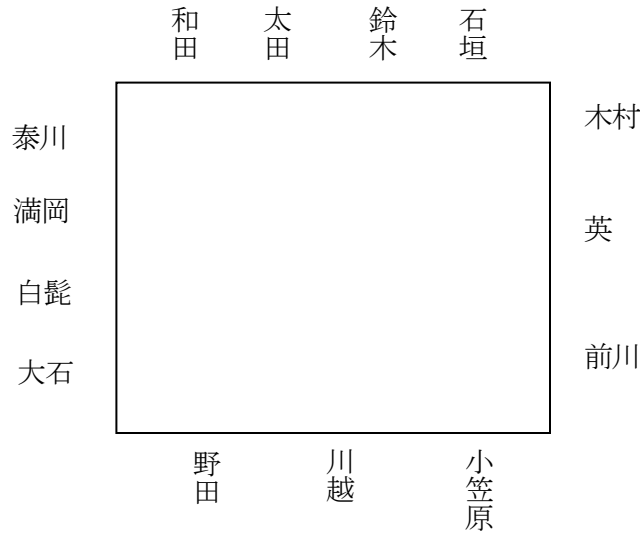


一般社団法人 全国在宅療養支援診療所連絡会 平成27年度第1回社員総会 議事録

作成日：2015年5月8日

作成：事務局

【席 順】



日 時	2015年4月26日（日）12:30～13:30		
場 所	マリオス（盛岡地域交流センター） 180会議室		
出席者	太田 秀樹	栃木	医療法人アスムス
	和田 忠志	千葉	いらはら診療所
	鈴木 央	東京	鈴木内科医院
	石垣 泰則	静岡	城西神経内科/コーラルクリニック
	木村 幸博	岩手	もりおか往診クリニック
	英 裕雄	東京	新宿ヒロクリニック
	前川 裕	富山	前川クリニック
	小笠原 文雄	岐阜	小笠原内科
	川越 正平	千葉	あおぞら診療所
	大石 明宜	愛知	大石医院
	白髭 豊	長崎	白髭内科医院
	満岡 聡	佐賀	満岡内科消化器科医院
	泰川 恵吾	沖縄	ドクターゴン診療所
陪席	野田 正治	愛知	野田内科小児科医院
議題等	1 開会 2 世話人 近況・活動報告 3 日本医学会総会 4 議事 【報告事項】 ◎ 事務局 平成26年度決算報告・入会状況など i) 『日本在宅ケアアライアンス』について ii) 『全国在宅医療医歯薬連合会』について ◎ 教育・研修局 ◎ IT・コミュニケーション局 ◎ 調査・研究局 ◎ 第2回（平成26年度）全国大会報告		

	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎ 第3回（平成27年度）全国大会について 開催方法等 実行委員会組織</li> <li>◎ 第4回（平成28年度）全国大会について 愛知県 開催日時・開催場所等</li> <li>◎ その他</li> </ul> <p>【協議事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◎ 在宅療養支援病院 医師の会員資格について</li> <li>◎ 世話人会開催方法 開催時期 回数</li> <li>◎ 在宅での死亡診断に関する事項 MLを活用</li> <li>◎ その他</li> <li>◎ 次回世話人会議開催日程について</li> </ul>
議事等	<p>1 開会</p> <p>太田：平成27年度第1回全国在宅療養支援診療所連絡会 世話人会議を始めさせていただく。地域での活動について近況報告があればお願いしたい。</p> <p>事務局報告より、会員の状況については微増。微増ではあるが、質の高い在宅医療を提供し地域を作ってくれるような会員であれば良いと思う。皆様には地域で仲間を増やしていただきたい。</p> <p>日本医学会総会が8年ぶりに開催された。大きく流れが変わったことに驚いた。在宅医療が話題になっていた。新田会長も特別企画で講演された。</p> <p>決算報告について、時間がなく読み上げはしないがご確認ください。脆弱な財政基盤のなかでも堅実に運営している。</p> <p>第2回全国大会について、英先生よりお願いしたい。</p> <p>英：まとめた書類をご確認ください。2月14日15日にステーションコンファレンス東京において開催した。今回参加費を高め設定、事前申し込み15,000円 当日18,000円としたため、参加者が集まるか心配もあったが、お陰様で多くの方にお集まりいただきました。有料参加者 464名、東京都在宅医療推進フォーラムへの参加者が108名、懇親会参加者は203名。各県別の参加人数は表のとおり、東京が最も多く神奈川・愛知の順。</p> <p>今回も前回同様にプライマリケア連合学会との共催。新たな試みでは、海外から講師の招聘、また、『第5回東京都在宅医療推進フォーラム』と共同開催、国立長寿医療研究センター・東京大学高齢社会総合研究機構・東京大学医学部在宅医療学拠点主催の『全国在宅医療・介護連携研修フォーラム』との同時開催など。収支について、参加費は、若干高すぎた印象。企業展示出店については、100,000円から150,000円に上げたが集まった。詳細は省くが、収入について、参加費 619万、懇親会費 144万、協賛広告費 539万、大会補助金 260万、雑収入6万で、計1569万円。支出については会場費が高く367万、会場設営費 196万、飲食費 213万、報償費 124万 皆様に無償で講師をお引き受けいただいたおかげで節約できた。海外講師を含む旅費交通費 171万、その他、委託費・印刷費・消耗品費等、計1378万円。皆様にご確認いただきたいことは、VTRの公表について。今回、紅谷先生にご協力いただけてすべてVTRに収めた。その公表の可否についてアンケートを取った。○のついた方は、公表可。△は、ユーチューブへの配信許可は得ている。事前に通知があれば良かったが、という前提で×の方もいる。</p> <p>太田：いい内容だったので、是非公開したいが、×の方がいるので無理でしょうか。</p> <p>鈴木：行政関係者は、後から言われてもという部分があるのは致し方ない。来年度は、事前に公開の確認を取ったほうが良い。</p> <p>太田：来年度は、事前に承諾を取る配慮が必要。今回については、海外講師の部分だけでも可能であれば、できる範囲で公開してはどうか。</p> <p>太田：続いて、『日本在宅ケアアライアンス』について、前回の会議でお伝えしていたが、3月1日に、正式に発足した。委員は、アライアンスに参加した団体からの代表と有識者委員を置いた。議長は、新田國夫当会会長、副議長は、前田憲志日本在宅医学会代表理事と佐藤美穂子日本訪問看護財団常任理事、共同事務局長として 苛原実在宅ケアを支える診療所・市民</p>

ネットワーク会長と太田秀樹。有識者委員には、鈴木邦彦日本医師会常任理事、田城孝雄放送大学教授、辻彼南雄在宅医療助成勇美記念財団理事、和田忠志全国在宅療養支援診療所連絡会理事。顧問として、横倉邦彦日本医師会会長、大島伸一国立長寿医療研究センター名誉総長、辻哲夫東京大学高齢社会総合研究機構特任教授。これだけの在宅医療に特化した職能団体が団結した。日本の在宅医療をより良い方向に持っていけるように社会に提言していきけるような活動を目指す。

『全国在宅医療医歯薬連合会』について、4月1日に正式に発足した。前回お伝えしたように、世話人会を21名で構成。初めの活動としては、市民向けプロモーションDVDを作り、ユーチューブで配信する。費用は、勇美記念財団に申請。非常に在宅医療に特化した団体であるので、この連合会で全国大会等の開催を目指したい。ゆくゆくは、今までの全国大会をこの連合会で開催できるよう考えている。そうなると、より大きな大会の開催が可能となる。

満岡：看護師は入らないのか。

太田：看護師は、歴史的に訪問看護事業協会と訪問看護財団というしっかりとした組織がある。そのような組織と協同していくことを考えている。

和田：教育研修局から、在宅医療推進フォーラム地方版の開催については、資料の通り。現在は、当会と地域の訪問看護ステーション連絡協議会と勇美記念財団の共催で行っている。将来的には、先ほどの医歯薬連合会と地域の訪問看護ステーション連絡協議会と勇美記念財団の共同開催にしたいと思っている。2～3年かかると思うが調整中。DVD「はじめよう在宅医療」について、複写や配布等の自由度が増す。GoldStandardsFramework 創始者が来日予定で、講演会を調整中、交渉が難航していたが、確定したら改めてお知らせする。

太田：IT・コミュニケーション局の中野先生からは、資料が届いている。MLで死亡時刻について議論されている。医師の裁量に任されている部分と思う。ML上で議論を続けていただき、患者・医師ともに良い方向にもっていきたい。

鈴木：制度を理解したうえで、医師の裁量権の中で行うのが望ましい。整合性を求めすぎると逆にやりにくくなる部分もあるのではないかと。

太田：保険点数について、英先生から協力を仰ぐ資料が提出されている。

英：診療報酬改定について、10月頃から具体的な議論に入るが、5月頃に原案は出来ると思われる。少し前に厚労省に行った際、重症度別の診療報酬を導入する可能性があると感じた。軽症が切られ重症例が評価されない、という事態になることを懸念する。データを示して提言したい。連絡会の意見をまとめるのではなく、データの収集とアンケートにご協力いただきたい。課題として何点かあげた資料を作った。月1回の在医総管があっても良いのではないかと。在宅がんの報酬についての見直し。休日の緊急往診について評価があっても良いのではないかと。患者数と看取り率に相関はないが、看取り数と看取り率には相関がある事から看取り数について評価があっても良い。がん患者は、在宅療養期間が短く、負担が大きい。これらの診療報酬についての課題・疑問点などについて、データをまとめたい。アンケートやデータ提供に関して、連絡会として意見をまとめるわけではなく、任意でのご協力をお願いしたい。

太田：任意だが、我々は良質な在宅医療を提供している団体として、協力したい。

鈴木：在医総管について、終末期の患者にどれほど手が掛かっているか、また、月1回の訪問診療でもほとんどの場合が24時間対応していることなどについて、データで示さなければいけない。データをどう集めるかがポイント。

和田：報酬と医療技術が一致するような議論も必要。例えば、在医総管について言えば、月2回訪問診療して24時間対応で加算できるが、定期訪問することができるか、と24時間対応ができるか、とが診療報酬上では混同されている。

太田：アンケートには自由記載が多く設けられている。こちらを活用し現状を伝えてほしい。

太田：第3回全国大会について、鈴木先生お願いします。

鈴木：事務局を担当してくださる永井先生と相談して、規模を拡大して開催したい。2列のプロ

	<p>グラムから3列のプログラムでできないか、と会場は2フロア押さえた。参加費は、13,000円くらいで調整している。半年くらい前の9月頃にプログラムを確定したい。実行委員については、関東近郊の在支診のメンバーからピックアップし、グループで開催できるようお願いする予定。テーマは、確定ではないが『新たなステージ・新たな課題』ということで考えている。28年3月12日(土)13日(日) ステーションコンファレンス東京</p> <p>太田：第4回全国大会については、名古屋で調整ができたと聞いている。日程・場所などは今後の課題ということで良いか。11月を除く月で、他はお任せしたい。</p> <p>太田：本日の在宅医学会について、木村先生お願いします。</p> <p>木村：およそ2,000人、市民を含めると3,000人ほどの参加が得られた。</p> <p>太田：協議事項に移る。在宅療養支援病院の医師の会員資格について、現在は、当会の会員にはなれるが、世話人になるなどの議決権はないとされている。趣旨は同じなので、今後は受け入れてはどうかという声も聴く。反対意見があれば、理由も含めてお知らせ願いたい。</p> <p>前川：富山で、支援診療所病院連絡会を作った。別に富山県在宅医会というのもあり、支援病院ではないところも多く参加している。病院の医師は、患者さん宅に行くことなど考えていないなど、在宅医とは次元が違うことも多い。個人としては、後方支援病院として協力してほしいと思う。</p> <p>木村：支援診療所がない地域もあり、そういう地域では病院の意義が大きい。</p> <p>鈴木：大田区では、在宅医療が増えてきている。その牽引力となっているのは支援病院で、大変助かっている。ただ、看取りに関しての感覚が病院医師と異なる。我々は最期まで自宅でと考えるが、病院医師は悪くなったら入院と考える。大きな問題にはなっていない。</p> <p>太田：地域差が大きい。</p> <p>大石：日慢協との兼ね合いは。</p> <p>太田：四病院団体の中で在宅療養支援病院連絡会を作ろうという動きがある。</p> <p>泰川：沖縄の石垣島には、在宅療養支援診療所はゼロ。支援病院になっていない公立の病院ががんばっている状況。今のところ支援診療所ができる予定もない。石垣は、医師の数も少ない。そういった地域への配慮も必要。</p> <p>石垣：国民目線で考えると在宅医の会が分かれているのは好ましくない。</p> <p>和田：在宅療養支援診療所ではないが、良心的に在宅医療を行っている医師も評価できると良い。</p> <p>白髭：支援病院が在宅医を雇ったことで、在宅医療のレベルアップを図れた例もある。</p> <p>太田：この連絡会は、厚労省などから信頼を得てきている。信頼を崩さないよう慎重であるべき。地域の実情を踏んで、皆様からご意見をいただいたうえで方向性を決めたい。</p> <p>太田：世話人会議について、今までは、他の会の開催に合わせて開催してきた。今回は、ランチタイムにしたが、ランチョンセミナーの講師になっている先生方も多い。従来のように何かの会に合わせた開催が良いか、世話人会を単独で開催しても良いか、ご意見を頂きたい。この会は、必ず出席しなければならないというものでも、何人以上の出席が必要、というものでもない。MLで議論はオープンにし、議事録も配信する。</p> <p>和田：全国大会と在宅医療推進フォーラムの年2回、としてはどうか。</p> <p>太田：年2回、11月22日在宅医療推進フォーラム前日と全国大会に合わせた開催。 今年度は、11月22日と全国大会に合わせた3回、とする。 ⇒承認</p> <p>和田：地域医療研究会について、後援頂きたい。 ⇒承認</p> <p>太田：平成27年度第1回世話人会議を閉会する。</p>
資料	<p>○議事次第 ○一般社団法人 全国在宅療養支援診療所連絡会 世話人名簿・会員状況</p> <p>○平成26年度事業及び決算報告書 ○第2回全国大会完了報告書 ○ICT局より</p> <p>○教育・研修局より ○次期診療報酬改定に向けてのアンケート</p> <p>○全国在宅療養支援診療所連絡会 平成26年度第2回社員総会 議事録</p>
事務局	岩本 佳代子

